

報告会の延期

＜ロバンダ村パジェロ通信 21号 2011年3月27日＞

今回の地震で被災されたみなさまには心よりお見舞い申し上げます。

私の身近では、母が原発の隣、浪江町の出身のため、伯母やいとこ家族が避難生活を送っています。

まだまだ不安な日々が続いていますが、一日も早く被災された方々が平穏な日々に戻れることを、心から願ってやみません。

1. 3月15日の三菱自動車での報告会は延期に

予定されていた現地活動報告会は、電車の運行や余震の状況が不安定でしたので延期になりました。5月または6月に改めて開催させていただきたいと思っています。

また、決まりましたらご連絡いたします。

2. 3月11日震災の日のエココミュニティ・タンザニア

地震が起こったとき、エコタンメンバー7人は、WAVOC（平山郁夫記念ボランティアセンター）で報告会に向けてリハーサルをしていました。

突然の大きな揺れに騒然。机の下や建物の外に非難しました。

その後、リハーサルを中止して、テレビで情報収集。津波の様子、被災の様子が次々と映し出され、現実とは思えない驚きをメンバーは共に感じる事となりました。

電車が止まって家に帰れなくなった5名は、徒歩30分の岩井宅に泊まりました。学生リーダーの佐藤さんは、20kmの自宅まで4時間歩いて帰りました。

電話が繋がらない混乱の中で、エコタンメンバーで助け合うことができたのは不幸中の幸いだったと思います。

3. 2月12日ー26日の現地活動は無事に終わりました

病人がでることもなく、計画していた活動を実施し、さらに今後の新しい展開となるきっかけも得ることができました。

また、追ってこのパジェロ通信や報告会などで報告していきたいと思います。

4. タンザニアの村人から、たくさんのお見舞いメッセージ

タンザニアでも、日本の津波と原発は大きく報道されています。心配した関係者から、たくさんメッセージが寄せられていますので、そのうちの一つを紹介します。

現地協力 NGO セデレックのブライトくんより

「日本で起こった津波に、私たちは心を痛めています。たくさんの方々が地震で被災されたことを聞きました。早く状況が良くなることを祈っています。

エコタンのみんなは無事だと聞いてほっとしました。

日本のみなさんのために、私たちは祈っています。

私たちは、あなた方といつも共にいます」

今度は、私たちがタンザニアから応援メッセージをもらう立場となりました。

今の日本で何ができるのか、WAVOC としても個人としても考えています。

岩井雪乃 （助教）

早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター

2 月に学生たちがロバンダ村へ渡航しました！

＜ロバンダ村パジェロ通信 22 号 2011 年 7 月 11 日＞

暑い日が続きますが、みなさまいかがお過ごしでしょうか。

WAVOC では、節電対策で冷蔵庫と電気ポットのコンセントが抜かれ、間引き点燈しています。

自動車業界のみなさまは休日が変更になり、さらに大きな影響を受けて大変な状況と存じます。

ロバンダ村の人たちからは心配するメールをたくさんもらっています。

エコタンメンバーには、電気も水道もないロバンダ村で、それでも楽しく過ごせた秘訣を思い出して、今の日本に生かしてほしいですね。

さて、2 月に実施した現地活動に関する報告が、震災の影響で遅れていました。

ようやく報告させていただきます。

今回は、リーダーを務めた佐藤祐未乃さん（3 月に文学部卒業）が作成してくれました。

ここからは、リーダーを務めた佐藤が報告します。

1. 学生たちがロバンダ村へ渡航！

2008 年 2 月の渡航を最後に学生主体のプロジェクトとしては休止していたエココミュニティ・タンザニア(エコタン)が、2010 年 10 月に再始動し、教員の岩井と学生 9 名で渡航してきました。

小学校で大うけだった劇、ソーラン節など大人数ならではの交流ができました。学生たちと村人とが出会うことで、学生たちは村の生活から日本を客観的に見る視点を学びました。村人にとっては、日本から学生が来ることでより信頼関係が結ばれ、パトロールカーを大切に使うてくれればと思っています。



ロバンダ小学生向けの劇で日本の小学生の習い事
「水泳」を紹介。溺れる目黒くんを救助。

2. トライトン大活躍！？

MMC さんに寄贈していただいた2台目ゾウパトロールカーのトライトンは、イコマ語で「ウトンゲレゲーコーグ」と名付けられています。「やる気のある人を応援するぞ!」という意味です。

今回、学生が行ったモニタリング調査では92%の人が、車が役に立っていると評価。車の管理も村長・助役・ドライバーが協力し、迅速かつ公平に運用されています。

しかし、ゾウ被害においては72%の世帯が被害を受けており、耕作地の約半分が荒らされていました。1台目のケルンデが活躍した年は、被害世帯が42%まで減ったのに比べると、今回は被害があまり減少していません。トライトンがいたはずなのに?!と疑問でなりません。その真相解明が今後の課題です。

とはいえ、ロバンダ村の人たちにとってトライトンは頼みの綱。被害調査の中で、村人は農業に必要なものとして車をあげていたり、トライトンでマラリアの子どもを病院に搬送したりという話を聞きました。トライトンが村人にとってなくてはならない存在となっているのだな、と実感しました。



トライトンと畑の前で



運転手ムゴシとだあれ？

3. ドライバー、ムゴシのエコタン日記

今回は現在トライトンのドライバーであるムゴシをご紹介します。

ムゴシは妻子をもつ32歳。私たちが村に到着する日、ピッカピカに磨かれたトライトンと共に村のゲートまでお出迎え。その後もエコタンメンバーと交流し終始上機嫌。上機嫌なのはエコタンメンバーに会えたからだと思っていたら、その理由はなんとメンバーの一人の女の子に一目惚れしてしまったからだなんです! ダンスパーティーで彼女をダンスに誘ったり、挨拶代わりに手にキスしたりとプレイボーイっぷりを発揮。

日本人からすると、妻子持ちなのにいいの?と思いますが、タンザニアの男性はゲストを楽しませるために、こういった恋愛ジョークを駆使するよう。とっても楽しませてもらいました。

そんなムゴシですが、仕事っぷりは村人公認のまじめさです。24時間体制で待機し、ゾウが来たとの連絡が入るとトライトンに乗ってすばやく現場へ。いつでも出動できるよう、携帯電話を肌身離さず持っているそう。

ムゴシの悩みは、お給料のこと。現在は歩合制になっており、1回のパトロール、1回の病院搬送単位で手当をもらっています。そのため、安定的な収入が保証されておらず、しかも決して高い額ではあ

りません。ゾウがたくさん出た方が稼ぎになるなんて皮肉ですね。

トライトンの適正な管理と有効活用のためにも、トライトンに関わる人たちの生活を守っていくことは重要です。こうした問題もエコタン側から村議会にかけあってみたいと思います。今後もムゴシの活躍に期待です。

以上、報告になります。

私は現在、大学を卒業し有機農産物を取り扱う会社に勤めております。日々、原発の放射能に関する食の不安の声を消費者からいただきます。原発が日本の生活の基盤を計れないきれないほど揺るがしてしまっているということを実感しております。

エコタンで学んだ、どれだけ被害にあっている辛い人たちの立場になって考えられるかということの重要性を感じながら、今自分にできることは与えられている仕事を精いっぱい行うことだと思っています。

直接的ではないですが、それが周り巡って被災地の経済の回復や復興につながっていくのだと思い、日々頑張っています。

以上、佐藤さんからの報告でした。

佐藤さんは、仕事では、食の安全を守ることと、農家さんを応援することを両立するべく、挑戦を続けています。福島に親せきを持つ身として、とても重要な取り組みだと思っていますのでがんばってほしいです。

今年のゾウ被害はロバンダでは平年並みだそうです、近隣の村では村の中心部までゾウが出てきて困っているそうです。

さらに、今年は東アフリカ全域で雨不足で不作になっており、穀物価格が高騰しています。ロバンダ村の収穫はそれほど悪くないようですが、それでも自給には足りないの、食料を買わなければなりません。価格高騰の影響が心配されます。

AVOC では、震災ボランティアを実施しています。

岩井もエコタンメンバーも、こちらにも積極的に取り組んでいます。

東日本大震災復興支援プロジェクト

<http://www.waseda.jp/wavoc/support/>

引き続きエココミュニティ・タンザニアをよろしくお願いします。

岩井雪乃 （助教）

早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター

E-mail: iyukino@aoni.waseda.jp

パジェロが復活！

＜ロバンダ村パジェロ通信 23号 2013年1月7日＞

明けましておめでとうございます。

しばらく無沙汰しております。早稲田大学の岩井です。

いつも、タンザニアでゾウによる農作物被害に苦しむロバンダ村をご支援いただきありがとうございます。

今年も引き続きゾウとの共存にとりくんでいきますが、最近の村の様子をお伝えします。

1. トライトンは良好に活用されています。

2010年2月に三菱自動車のご協力を得て、2台目のゾウ追い払いパトロールカーをロバンダ村に寄贈しました。車は良好に管理運用されています。ムロバンダ村長・イタベ副村長・ムゴシ・ドライバーの連携はしっかりとれているのが心強いです。

2. パジェロが復活！

2009年以来、シャーシの錆と亀裂により走行困難になっていたパジェロ（ケルンデ1号）が、2011年11月から修理されて再び活用されています！

何人もの修理技師を招いて粘り強く点検を続け、「ブッシュ」を修理した結果、再び安定走行可能になり、道なき畑に分け入ることも、40km離れた県立病院に行くこともできるようになったのです！

ゾウによる農作物被害は悪化する一方なので、2台でパトロールできる体制に村人は大変喜んでいきます。



修理されたパジェロと村の幹部たち

3. ゾウ被害の拡大

しかし、残念ながら、ゾウ被害は拡大する一方です。2012年1月には、200頭ものゾウの大群が村に押し寄せ、村中がゾウだらけになる状況が起こりました。トライトンが出動したものの、村内にちらばったゾウをすべて追い払うにはかなりの時間がかかり、その間に受けた畑の被害は甚大でした。

村を襲うゾウ群は、年々大きくなっています。どこまで車で防げるのか？ やがて防ぎきれないときが来るのが心配です。

次号では、ゾウを追払う新しい試みを紹介します！お楽しみに！



1 トンタンクで水を運ぶトライトン。ゾウを追払う以外の場面でも村人の生活を支える。



ゾウの被害を見せてくれるママ

ゾウはミツバチが怖い？

＜ロバンダ村パジェロ通信 24号 2013年1月15日＞

パジェロが再び活躍しているとの報告に、MMCのみなさまからたくさんの激励メールをいただきました。1号のパジェロは、多くの方々の想いがつまっていることを、改めて感じています。

1. 新しいゾウ対策「ミツバチロープ」

前号でお伝えしたとおり村にやってくるゾウは増える一方です。そしてゾウ被害は、ロバンダ村だけでなく、セレンゲティ国立公園に隣接する村の多くでも起きています。ロバンダ村ではパトロールカーという対策をおこなっていますが、セレンゲティ県内の20の村では、

そのような対策を実施する予算がありません。

そこで、低予算で村びとの力で実施できる対策がないかと調査を進めた結果、「ミツバチロープ」という手法があることを発見しました。

これは、畑のまわりに養蜂箱をぶら下げて設置し、そこで蜂を飼います。ゾウがやってくると、蜂がゾウを攻撃して追払ってくれるし、ハチミツがとれれば収入にもなるという、一石二鳥の対策なのです！

小さなミツバチですが、ゾウはこの羽音が嫌いだそうです。



100個の養蜂箱を近隣の観光ホテルとエコタンの支援で購入



力を合わせて設置作業。草を刈り払い、ポールを立てて、ワイヤーを張る。かなりの重労働。

2. ミセケ村で試験導入

ロバンダ村から20kmほど離れたミセケ村も、被害が年々、深刻になっています。藁にもすがりたい村びとにミツバチロープを提案したところ、「ぜひ試したい！」ということになりました。

ケニアへの研修旅行費用を支援して、2011年2月に村びと3名が研修へ。その後、農民グループで会議を重ね、観光ホテルに支援を頼み、とうとう10月に100個の養蜂箱が設置されました。

すでに蜂が定着している箱もあるそうです。5月の収穫期に向けて、畑を守ることができるのか？ がんばれミツバチ！



ミツバチロープが完成！10mおきに設置するので、
これでも まだ畑の一部のみ。

大岩に集まってロープの設置や管理について話し合う会議

2月10-28日の日程で、タンザニアに行ってきます。ミツバチロープの最新状況を見てきますので、帰国したらご報告します。



セレンゲティ県知事にも応援してもらっています

過去のパジェロ通信はこちらから

WAVOC プロジェクト・エココミュニティ・タンザニア

「涙と笑いのパジェロ寄贈奮闘記-アフリカゾウから村を守れー」

http://www.waseda.jp/wavoc/project/pajero_report0.pdf

http://www.waseda.jp/wavoc/project/pajero_report1.pdf

http://www.waseda.jp/wavoc/project/pajero_report2.pdf

岩井雪乃 （助教）

早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター

E-mail: iyukino@aoni.waseda.jp

ハッピーハニーチャレンジを開始！

＜ロバンダ村パジェロ通信 25号 2013年8月12日＞

暑いが続いていますが、いかがお過ごしでしょうか？
いつも支援いただいているみなさまに最近の活動の様子をご報告します。

1. トライトンは順調に活躍中、パジェロは休業中

2010年2月に三菱自動車のご協力を得て寄贈した、2台目のゾウ追払いパトロールカー（トライトン）は、しっかり管理運用されています。

ただ、パジェロは休業中です。エンジンのスターターに問題があり、押さないとエンジンがかからない状態なのです。

村としては、ディーゼルエンジンのパジェロの方がコストが安くすむため、パジェロの方を使いたがっています。村長はじめ、みんな残念がっていました。村の予算をとれば、修理を進めるそうです。



トライトン



パジェロ

2. ゾウによる被害は拡大中

2012年はゾウ被害が拡大していて、85%の世帯が被害にあっていました。
ゾウの来襲の頭数および頻度が増加しているため、1台の車では追払いきれないようです。

3. ミツバチを使った対策：ハッピーハニーチャレンジ

そこで、ミツバチを使った対策も始めています。ゾウは蜂の羽音を嫌うので、畑の周囲に養蜂箱を設置して、蜂を飼う方法です。2012年10月から、試験的に100個の養蜂箱を設置しました。ゾウが追払えるし、ハチミツがとれば現金収入にもなるので、一石二鳥の対策だと好評です。

4. 岩井が代表理事をつとめる（特活）アフリック・アフリカでは、「アフリカゾウ基金」として、ハッピーハニーチャレンジへの寄付（養蜂箱設置費用）を募っています。

アフリカゾウ基金

<http://afric-africa.vis.ne.jp/04africa/index.htm>

5. 2013 年度は、W-BRIDGE（早稲田大学とブリヂストンの連携プロジェクト）から助成金をいただけることになりました。これで、さらに 100 個の養蜂箱を設置します。

W-BRIDGE <http://www.w-bridge.jp/>



農民たちと



養蜂箱

実は、今日から現地に行ってきます！学生チームも一緒です。今回の活動は、養蜂箱のさらなる設置がメインになります。

試行錯誤しながら続けていますので、引き続き、ご支援をよろしくお願いします。

本メール「パジェロ通信」は、WAVOC プロジェクト・エココミュニティ・タンザニアより、お世話になっている方々への報告として作成しています。送信を希望されない方は、下記アドレスまでご連絡ください。

また、送信を希望される方がおりましたら、ご連絡ください。どなたにでも広く読んでいただきたいです。

岩井雪乃 （助教）

早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター

E-mail: iyukino@aoni.waseda.jp
